

「ジチアノン」、「チオベンカルブ」、「1-ナフタレン酢酸」及び「フルシラゾール」の食品安全基本法第24条第1項及び第2項に基づく食品健康影響評価について

1. 経緯

「ジチアノン」については平成19年7月27日付けで農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大の申請があった旨、「チオベンカルブ」については平成19年7月27日付けで魚介類に関する基準値設定の要請があった旨、「1-ナフタレン酢酸」については平成19年7月30日付けで農薬取締法に基づく登録に係る申請があった旨、農林水産省より連絡があったところである。

「フルシラゾール」については平成19年6月18日付けで「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」（平成16年2月5日付け食安発第0205001号）に基づき、残留基準の設定が要請されたところである。

これらの剤について、食品中の残留基準設定の検討を開始するに当たり、食品安全基本法（平成15年法律第48号、以下「法」という。）第24条第1項に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

また、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第3項の規定に基づき、食品に残留する農薬等に関するポジティブリスト制度を導入したことに伴う残留基準（いわゆる暫定基準）等の設定については、法第11条第1項第3号に該当するものとし、いわゆる暫定基準を設定した農薬等の食品健康影響評価については、本制度の施行後相当の期間内に、食品安全委員会に依頼することとしているところである。

これらの剤については、本制度の導入に当たりいわゆる暫定基準を設定したものであり、今般、評価に必要な資料が収集できたことから、法第24条第1項の規定に基づく評価に併せ、法第24条第2項の規定に基づく食品健康影響評価を依頼するものである。

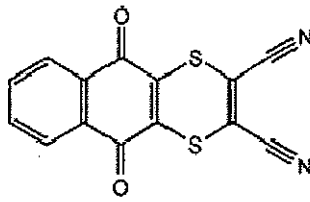
2. 評価依頼物質の概要

(1) ジチアノン

本薬は殺菌剤であり、平成19年8月現在、かんきつ、りんご等に登録がある。今回新たにネクタリンへの適用が申請されている。

FAO/WHO合同残留農薬専門家会議（JMPR）における毒性評価では、許容一日摂取量（ADI）として0.01 mg/kg 体重/日と設定されている。おうとう、ぶどう等に国際基準が設定されている。

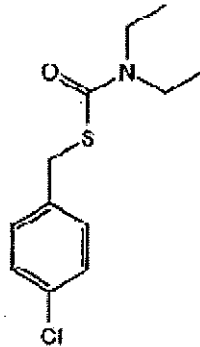
ポジティブリスト制度の導入に際して国際基準、農薬取締法に基づく登録保留基準及び海外基準を参考に新たな基準を設定した。



(2) チオベンカルブ

本薬は除草剤であり、平成19年8月現在、水稻、レタス等に登録がある。今回魚介類への残留基準の設定が申請されている。

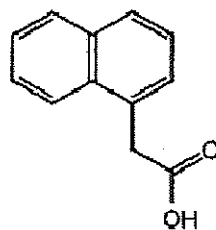
JMPRにおける毒性評価は、なされておらず、国際基準も設定されていない。ポジティブリスト制度の導入に際して海外基準を参考に新たな基準を設定した。



(3) 1-ナフタレン酢酸

本薬は植物成長調整剤であり、今回みかん、りんご等への適用が申請されている。

JMPRにおける毒性評価は、なされておらず、国際基準も設定されていない。ポジティブリスト制度の導入に際して海外基準を参考に新たな基準を設定した。

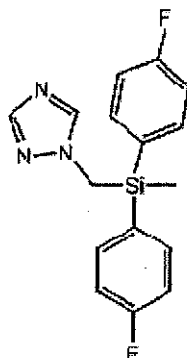


(4) フルシラゾール

本薬は植物成長調整剤であり、今回平成19年6月18日付けで「国外で使用する農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」(平成16年2月5日付け食安発第0205001号)に基づき、かんきつに係る残留基準の設定が要請されたところである。

JMPRにおける毒性評価では、許容一日摂取量(ADI)として0.001 mg/kg 体重/日と設定されている。バナナ、大麦等に国際基準が設定されている。

ポジティブリスト制度の導入に際して国際基準を参考に新たな基準を設定した。



3. 今後の方向

食品安全委員会の食品健康影響評価結果を受けた後に、薬事・食品衛生審議会において上記農薬の食品中の残留基準設定等について検討する。